

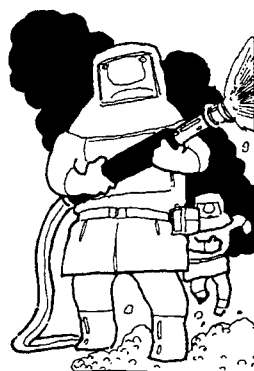
火事の起きやすい

季節です

秋の火災予防運動

11月9日～15日

これからは、一年のうちで最も空気が乾燥し、火災が発生しやすい季節です。今年も、十一月九日から十五日まで、「まず消そう、火への鈍感 無関心」を統一標語に、秋の全国火災予防運動が実施されます。



秋の全国火災予防運動 11月9日～11月15日

約五万六千件——これが平成元年中に全国で発生した火災の件数です。時間にするとはば六分間に一件の割合で火災が起こっていることになり

ます。また、火災による死者は、千七百四十七人で、一日当たり五人もの尊い生命が失われたこととなります。放火自殺者を除いた死傷者を年齢別の割合で見ると、六十五歳以上のお年寄りとお年寄りが高い割合を示しています。

お年寄りの場合は、寝たばこの不始末から就寝中に寝具に火が燃え移り、煙に巻かれるケースや、一人でたき火をしていて着物に火が付き、体が不自由なために消すことができなかったなど、悲惨な例が見られます。

一方、幼児の場合は、親の留守中に火災が発生し、逃げ出せなかったなどの痛ましいケースが報告されています。お年寄りや子供、体の不自由な人、病人を火災から守るためには、家族はもちろん、隣近所の協力が重要です。幼児やお年寄りだけを残して外出するのは、できるだけ避けたいものです。やむを得ない場合は、必ず隣近所に一声かけて出かけるようにしたいものです。

11月9日は「119番」の日です

119番の通報は落ち着いて正確に伝えよう

火災の消火活動や救急救助活動は、一刻を争う時間との勝負です。

例えば、「119番」に火災発生を通報するとき、場所や状況を正しく伝えられなければ、消防車両の現場への到着が遅れてしまい被害が大きくなってしまったという痛ましい例も少なくありません。皆さんの正しい通報が、迅速・適確な消防活動につながります。「私は、あわてないで通報できるから大丈夫。」とか

「火事や事故は起こさないから必要ない。」などという過信は禁物です。

災害はいつどんな形で起きるかわかりません。



家庭での出火場所と原因

